

【基本施策の目的】

障がいのある市民が、障がいの有無によって分け隔てられることなく、自立した日常生活または社会生活を営み、安心して暮らすことができる環境をつくります。

【基本施策の今後の優先度】

中	基本施策の指標値は基本的に横ばいであるものの、地域移行のための受け入れ態勢を整備するため、引き続きグループホームの整備促進などに努めていく。 しかし、当面は現状の取り組みをしっかりと進めていく予定であり、同一分野内における他の基本施策との比較の結果、「中」と判断した。
---	---

【指標の分析と今後の対応】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	今後の対応	
1 平成24年度以降に施設入所から地域へ生活の場を移した市民の数(累計)	人	実績	0	4	4	4	第2次小牧市障がい者計画(後期計画)に基づき、グループホームの整備促進に努めているところであり、移行者数は微増の見込である。	地域移行のための受入態勢を整備するため、引き続きグループホームの整備促進に努めていく。	
		目指す方向性							
2 グループホーム利用者数	人	実績	31	35	47	65	第2次小牧市障がい者計画(後期計画)に基づきグループホームの整備促進に努めているところである。また、事業所数も年々増加している状況にあり、利用者数は今後も増加の見込である。	引き続きグループホームの整備促進に努めていく。要綱に基づく施設等整備費の補助金交付を継続するとともに、運営費の助成についても引き続き検討する。	
		目指す方向性							
展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	事務事業等の見直し内容
1 相談支援体制を整備します	相談の件数	件	実績	6,695	9,570	10,465	9,820	昨年の数値と比べると減少しているが、精神障害者が同じ用件で何度も電話をしてくる類の相談は、その都度カウントしており、状況によっては、件数の増減が大きいので、相談件数全体としては、概ね横ばいと捉えている。相談ケースの多様化、困難化の傾向があり、相談体制の更なる充実が必要と考えている。	引き続き、相談支援事業の体制の充実を図るため、自立支援協議会の連絡会で事例検討等の研修などに取り組み、質の向上や関係機関の連携に取り組む。 また、相談内容のうち権利擁護に対する体制の充実に向けて、新たに機関を設置し障害者や関係機関の支援を行う。
			目指す方向性						
	相談支援専門員の数	人	実績	9	17	17	17	平成26年度は、障害福祉サービスを利用するために利用計画の作成が必須となった影響で、相談支援専門員が大幅に増加した。今後も利用計画の作成のため少しずつ増加する見込みである。	引き続き、利用計画の作成に必要な相談支援専門員の体制を維持する。
			目指す方向性						

展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	事務事業等の見直し内容	
2 自立に向けた就労・社会参加を支援します	民間企業における障がい者の雇用率	%	実績	1.8	1.8	1.88	1.92	ハローワークで障害者を雇用した企業への助成金を交付することや雇用率を満たさない企業から納付金を徴収するなどの仕組みがあるほか、市においても障害者雇用促進奨励金の交付を行っており、障害者雇用についての理解と仕組みが徐々に浸透してきていると考えられ、現状の水準を維持しているといえる。今後も現状の水準程度となる見込みである。	引き続き、障がい者が就労、及び社会参加をする支援をしていく。	
			目指す方向性							
	小牧市雇用促進奨励金支給企業数	社	実績	34	29	37	34	昨年と比べ概ね横ばいである。平成28年度の微減の理由としては対象者の企業の廃業などがある。今後も現状の水準程度となる見込みである。	引き続き、障がい者が就労、及び社会参加をする支援として本市の奨励金の仕組みを継続する。自立支援協議会就労連絡会にて、就労関係事業所の状況を一般企業に知っていただく取り組み等を通じて、雇用の促進につなげたいと考える。	
			目指す方向性							
	小牧市雇用促進奨励金支給対象者数	人	実績	59	49	59	60	昨年と比べ概ね横ばいである。廃業や退職の方もいる一方で、新しく雇用される方もおり、現状の水準を維持しているといえる。今後も現状の水準程度となる見込みである。	引き続き、障がい者が就労、及び社会参加をする支援として本市の奨励金の仕組みを継続する。自立支援協議会就労連絡会にて、就労関係事業所の状況を一般企業に知っていただく取り組み等を通じて、雇用の促進につなげたいと考える。	
			目指す方向性							
	障害者支援施設などへの物品等の発注数	件	実績	12	19	31	32	小牧市障害者就労施設等からの物品及び役務の調達方針に基づき、積極的な発注を全課に周知しているが、その継続により増加しているものと考えられる。今後も少しずつ増加する見込み。	引き続き調達方針の策定、庁内周知を行う。実績を把握して分析を行うとともに、取り組みを継続的に行っていく必要がある。	
			目指す方向性							
	3 障害福祉サービスなどを充実します	あさひ学園利用者の満足度	%	実績	96.4 (H26年度)		100	100	利用者アンケート中、全体的な満足度をはかる項目において「満足」「やや満足」の回答数を合わせると利用者のニーズが一定水準において、満たされているといえる。	全体的な満足度は得られているので、個々のニーズへの対応が課題である。今後も、アンケート等を通してニーズの把握に努め、引き続き、特性を活かして療育支援を進める必要がある。
				目指す方向性						

展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	事務事業等の見直し内容
3 障害福祉サービスなどを充実します	訪問系サービスの利用者数	人	実績	209	257	338	350	障害福祉サービスの対象者となる障害者手帳の所持者等が増加したことや、居宅介護事業所などの増加により、訪問系サービスの利用者数が増加した。今後も利用者の増加が予測される。	引き続き、訪問系サービスが必要な方に適切に提供を行う。
			目指す方向性						
	日中活動系サービスの利用者数	人	実績	372	549	595	661	障害福祉サービスの対象者となる障害者手帳等の所持者等が増加したことや、就労支援事業所等の増加により、日中活動系サービスの利用者数が増加した。今後も利用者の増加が予測される。	引き続き、日中活動系サービスが必要な方に適切に提供を行う。
			目指す方向性						

経常事業	削減に関する具体的な考え方	展開方向1	—
		展開方向2	現状の事業を引き続きしっかりと進めていく。
		展開方向3	現状の事業を引き続きしっかりと進めていく。
実施計画事業	資源投入の考え方	展開方向1	—
		展開方向2	経常事業を引き続きしっかりと進めていく。
		展開方向3	経常事業を引き続きしっかりと進めていく。